

福地鶏への乳酸菌給与による暑熱期の生産性向上

福地鶏は、簡易な鶏舎や農業用ハウスで飼育されることが多く、近年の猛暑の影響を受け生産性低下が課題になっています。そこで、通常の飼料に乳酸菌製剤を加えることで暑熱期に低下する生産性を高める技術について紹介します。

1 技術の内容

(1) 乳酸菌

乳酸菌は、共同研究者のベルテクス株式会社から提供された、製剤 (*Enterococcus* sp. HS-08 株) を用いました。この乳酸菌は、以前畜産試験場で行った福地鶏ヒナ (初生~28 日齢) への給与試験で、暑熱期において増体改善効果を示したものです。

(2) 給与量、給与期間および飼養条件

乳酸菌は、初生~120 日齢までの福地鶏ヒナには、液状製剤を 0.1%の割合で飲水給与、121 日齢以降は慣行飼料に粉状製剤を 0.5%の割合で混合給与しました。飼養条件は、通常通り 6 羽/m²以下の平飼いです。

(3) 乳酸菌給与による福地鶏生産性への効果

通常の飼料に乳酸菌製剤を加え飼育した福地鶏の産卵率は、乳酸菌を与えなかった場合と比べ平均で 2.4% 高くなりました。鶏舎内温度が 32℃を越えた頃から効果が現れ、特に平均最高気温が 35℃を超えた時期では 4.4%高くなりました (図1)。卵重、飼料要求率、HU も乳酸菌を与えた方が成績は優れていました。また、卵黄中コレステロール値は乳酸菌を給与することで低くなりました。

2 技術利用の留意点

暑熱期には、寒冷紗の設置や換気を良くするなど、飼育環境に対する基本的な暑熱対策を併用することが重要です。

【技術の効果およびコスト】

100 羽規模での試算では、乳酸菌給与に約 8 千円の費用を要しますが、産卵率が高まり販売高が向上するため約 3 千円/月以上の増収が見込めます (表1)。

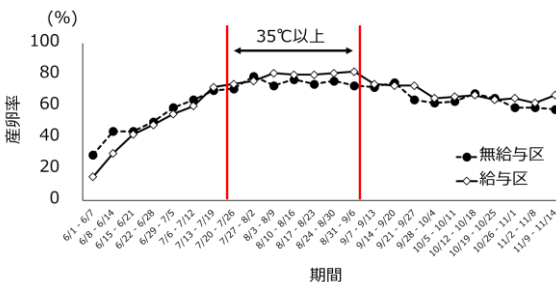


表1 収益性の比較 (鶏卵 70 円/個、100 羽飼養で試算)

	産卵率	卵重	乳酸菌製剤代	収益	対照区との収益差 (1か月あたり)
無給与区	66.1%	58.0g	-	694,050円	-
給与区	68.5%	58.4g	7,500円	711,750円	3,540円

図1 産卵率の推移